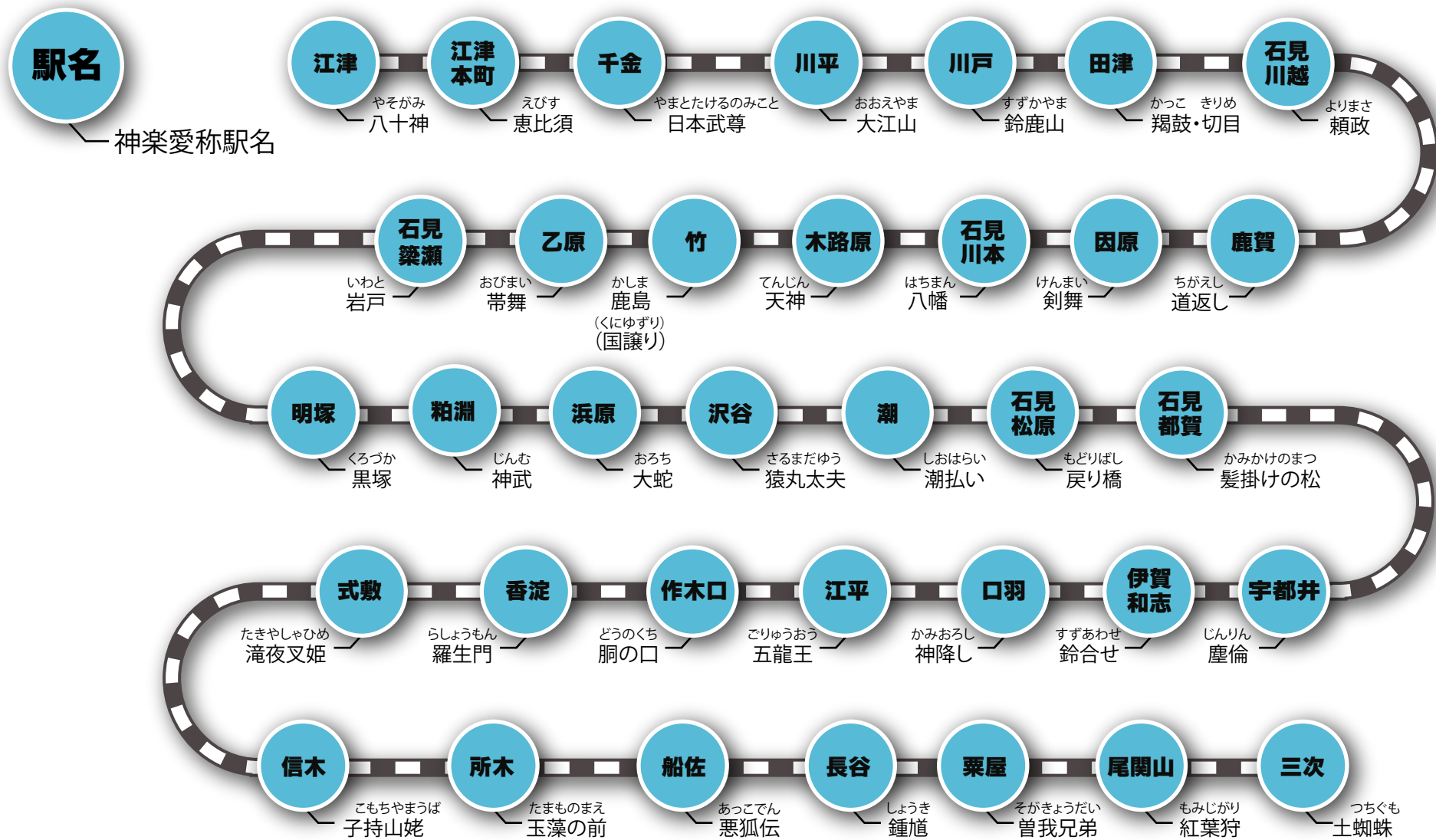


三江線神楽愛称駅名・大型愛称駅名板・神楽演目解説



大型愛称駅名板や演目の解説をご覧になりたい場合は駅名をクリックして下さい。

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
江津	やそがみ 八十神	<p>【登場人物】 大国主命<small>おおにくにぬしのみこと</small> 八上姫<small>やがみひめ</small> 八十神兄弟<small>やそがみかみょうだい</small>：武彦<small>たけひこ</small>・乙彦<small>おとひこ</small></p> <p>出雲大社の神様として有名な大国主命は八上姫と相思相愛、美男美女のカップルでした。しかしそれを妬んで邪魔をするのが、大国主の兄である八十神達です。彼らは見た目も心も醜く、何度も大国主を殺害して八上姫を手に入れようとしませんが、最後には大国主にあえなくやっつけられてしまいます。大国主は国土づくりに励み、葦原<small>あしはら</small>の中津国<small>なかつ</small>(日本の古名)を造り上げ、立派な主となるのでした。</p> <p>悪者の八十神達ですが、とぼけたアドリブが楽しく、どこか憎めないキャラクターです。</p>	<p>大国主の恋物語や国造りに尽力する姿は、江津ゆかりの柿<small>かきの</small>本人麻呂<small>もとのひとまろ</small>とどこかイメージが重なりはしないだろうか。</p> <p>出雲大社の祭神・「縁結び」の神・大国主が主役のこの神楽駅を出発点に、三江線に乗って「縁が深まる」石見の旅を楽しんでいただきたい。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

江津
Gōtsu
こうつ
Gōtsu
こうつほんまち、あさり
Gōtsu-honmachi, Asari
Kam



えいし



江津駅三次方向



江津駅浜田方向

八十神
やまがみ YAMAGAMI
JR-Guide

八十神 江津線 →

江津駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
江津本町	えびす 恵比須	<p>【登場人物】 大人<small>たいじん</small> 宮人<small>みやびと</small> 事代主命<small>ことしろぬしのみこと</small></p> <p>大人（立派な人・旅人）が出雲大社<small>いずみおほやしろ</small>に参拝しようとする途中、美保神社<small>みほのじん</small>に立ち寄ります。そこで宮人からいろいろといわれを聞きますと、ご祭神<small>まつりかみ</small>は「恵比須<small>えびす</small>(事代主命)」で、今も波風静かなときは磯辺<small>いそべ</small>で釣りする姿が見られると語ります。大人が数日滞在すると、ついに恵比須様が姿をあらわし、立派な鯛を釣り上げます。恵比須様の鯛釣りの様子はとってもコミカル。釣りエサとしてまかれる飴<small>あめ</small>は子供達に大人気です。</p>	<p>江津は「江の川の津（港）」の意味で、昔は貿易の主要地であった。</p> <p>ここは港<small>みなと</small>に因み、商売<small>しょうばい</small>繁盛<small>はんじょう</small>・福徳<small>ふくとく</small>円満<small>えんまん</small>の神・恵比須様<small>えびすさま</small>にあやかりたい。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



江津本町駅江津方向



江津本町

江津本町駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
千金	やまとたけるのみこと 日本武尊	<p>【登場人物】 日本武尊 吉備武彦 大和姫 賊首 兄ぎし・弟ぎし</p> <p>日本武尊は父・景行天皇の命令により、吉備武彦を伴い東国・蝦夷平定に向かいます。途中、叔母である大和姫のもとに立ち寄り、村雲の宝剣と守り袋を授かります。</p> <p>一方、武尊の進軍を聞いた蝦夷の兄ぎし・弟ぎしの悪者兄弟は大慌てで、親分の賊首に相談します。そして、焼き討ちにする謀略をめぐらし、武尊の到来を待ちます。武尊がやって来ると兄ぎしたちは「大きな野原に鹿がいて暴れるので作物が出来ず、年貢も納められないから退治してください。」と嘘をつき、大野に誘い入れ火を放ち、焼き殺そうとします。</p> <p>しかし武尊は村雲の宝剣で草をなぎ払い、守り袋に入っていた火打石で迎え火を起し難を逃れ、兄ぎしたちを退治し、東国を無事平定したのでした。</p> <p>このとき「村雲剣」は「草薙剣」と名を変え、三種の神器として今に伝わります。</p>	<p>千は優れている、金は鉄のことで、かつて良質の砂鉄が採れたという。</p> <p>日本武尊は石見神楽を代表する太刀舞であり、「草薙剣」の威徳を語っている。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



千金駅江津方向

JR 千金
506 Chigane



千金駅三次方向

日本武尊 文-G46

やまとたけるのみこと
Yamatotakerunamikoto

100
Date: APRIL 1996
No. 101-105

100
Date: APRIL 1996
No. 101-105

← 車比賣 100 日本武尊 100 大江山 →

千金駅

千金駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
川平	おおえ やま 大江山	<p>【登場人物】 源頼光 四天王（渡辺綱・坂田金時など） 大天狗 紅葉姫 酒呑童子 手下の鬼（茨木童子など数匹）</p> <p>酒呑童子は多くの手下を従え、丹波国（京都府）大江山に立てこもり、夜な夜な都において女人をさらい、金銀財宝を掠め取るなど、悪逆の限りをつくしていました。都の人々は大変恐れ、その嘆き悲しむ声はついに帝に聞こえ、武勇に優れた源頼光に童子討伐の勅命が下ります。</p> <p>頼光は家来の四天王と共に山伏姿となって山中に分け入り、童子の岩屋にたどり着き、一夜の宿を求めます。童子は本当の山伏かどうか疑いますが、問答の末、すっかり疑いは解け、頼光が持参した「人便鬼毒の神酒」に酔い伏してしまいます。</p> <p>時を得た頼光主従は、一斉に切りかかり、童子も妖術を使って応戦しますが、ついに討ち取られてしまいます。</p> <p>この演目は鬼が多く登場する豪華版。蜘蛛の妖術の様々な仕掛けにはワクワクします。</p>	川平神楽社中は古くから新曲目である「大江山」を伝えており、酒呑童子面は大型で自慢の逸品である。	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



川平駅江津方向



かわひら
Kawahira

川平駅江津方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
川戸	すずか やま 鈴鹿山	<p>【登場人物】 坂上田村麻呂 里人 鬼人</p> <p>鎮守府将軍・坂上田村麻呂が伊勢の国(三重県)鈴鹿山に住む鬼人の退治に向かいます。途中出会った里人から山の様子を聞き、その里人の案内によって山中に攻め入り、見事鬼人を退治します。六調子神楽ならではのこの演目。三江線をさらに進んだ安芸高田市周辺では同じ「鈴鹿山」でも登場人物が増え、ストーリーもドラマティックに。沿線の神楽の様々な違いにもぜひご注目。</p>	<p>地元・川戸舞子連中も得意とするこの演目は、桜江町をはじめとして邑智六調子地帯ならではの演目である。</p> <p>桜江沿線の山々が醸す深山幽谷の趣は、鬼人の住処に相應しい雰囲気がある。</p> <p>付近の市山地区には「大元神楽伝承館」があり、ここ桜江町は国指定重要無形文化財「大元神楽」のメッカと言える。</p> <p>この地から三江線とともに六調子神楽が伝えられ、変遷していく。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



川戸駅江津方向



川戸駅三次方向



川戸駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
田津	かっこ 羯鼓・きりめ 切目	<p>【登場人物】 神禰宜 天女 切目王子</p> <p>紀伊の国（和歌山）熊野権現・切目王子に仕える神禰宜（神官）が、高天原から降りた「羯鼓太鼓」という宝物を、よく鳴る所に工夫して据えようと、さまざまに試行錯誤する様を滑稽に舞います。しかし気難しい切目王子は「高い」「低い」となかなか納得しません。</p> <p>ようやくちょうどいいところに据え置くと、切目王子と天女が出現して、天地の根本について問答をし、太鼓を打ち鳴らして天下泰平、国家安泰を祈ります。</p>	<p>江津ブランド・「桜江ごぼう」の産地。</p> <p>こだわりの有機ごぼうは、神禰宜同様、生産者が試行錯誤をあきらめず重ね、産み出された逸品だ。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

羯鼓・切目 すてーしょん

かっこ・きりめ Kakko・Kirime



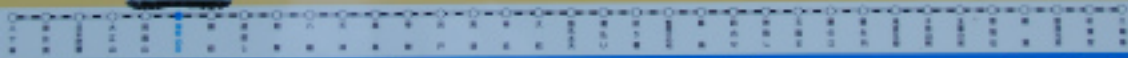
登場人物

高倉金、文正、切目王子

酒肴振付

足利の御(津鹿山)酒肴振付・切目王子に仕える神樂屋(神樂)が、高天原から降りた「高倉金」という宝剣を、よく勝負に出来て舞文ようと、おまの家に盗行盗脱する様を演舞に舞います。しかし、狡猾しい切目王子は高い「切目」となれが気が通じません。

よちやくちょうといふところの源光盛くと、切目王子と文正が共舞して、天狗の振付について勝負をし、太鼓を打ち鳴らして天下無双、御家安泰を行います。



← 鈴鹿山 Suzukayama

羯鼓・切目 かっこ・きりめ Kakko・Kirime

Yurimasa 頼政 →

田津駅



糺鼓・切目
Shūko・Kikime



田津駅 江津方向

田津駅江津方向



田津駅三次方向

羯鼓・切目 かっこ・きりめ

かっこ・きりめ Kakko・Kirime



指定席 4400円

自由席 2800円

※この列車は、JR東日本の「きりめ」列車の一部として運行されています。詳しくは、JR東日本のウェブサイトをご覧ください。

この列車は、JR東日本の「きりめ」列車の一部として運行されています。詳しくは、JR東日本のウェブサイトをご覧ください。

← 笠置山 Satsukiyama 羯鼓・切目 Kakko・Kirime 田津駅 Tatsu Station →

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
石見川越	よりまさ 頼政	<p>【登場人物】 <small>みなもとのよりまさ</small> 源頼政 <small>いのはやた</small> 猪早太 <small>ひやくしやう</small> 百姓 <small>ざるすうひき</small> 猿数匹 <small>ぬえ</small> 鶴</p> <p>平安時代、<small>みかど</small> 帝の住む御殿の上を、毎夜黒雲が覆い、怪しい魔物が奇妙な声で鳴くので、まだ幼い帝はおびえてしまい、心身が弱ってしまいました。そこで源頼政が召され、家臣・猪早太とともに退治に向かい、見事黒雲の中に魔物を射止めます。その正体は頭<small>けちやう</small>猿・体牛・手足虎・尾蛇の「鶴」という化鳥でした。</p> <p>途中で登場する着ぐるみの猿たちはイタズラが大好き。客席に乱入して観客を沸かせます。</p>	<p>甘南備寺に残る「<small>かんなんびじ</small>黄櫨<small>はじにおいおどしおおよらいざんけつ</small>勻威大鎧残闕」は日本に現存する鎧のうち、3番目に古いもので、平安時代、京都・宇治川の先陣争いで名を残す「<small>さきたかづな</small>佐々木高綱」使用のものとされる。去る四年前、平家が栄華を誇るとき拳兵し、源平合戦の引き金を引いたのが「源頼政」であり、宇治川にて自害している。</p>	島根県 江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



石見川越駅江津方



JR 石見川越

石見川越駅 Iwami-Kawagoe

← 土庄
Tsuetsubashi

石見川越
Iwami-Kawagoe →

石見川越駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
鹿賀	ちがえ道返し	<p>【登場人物】 武甕槌命 大魔王</p> <p>世界万国を荒らしまわる大魔王が日本に来たので、武甕槌命が退治に向かいます。はじめは和歌による戦い、その後、刀を持って激しく戦い、ついに魔王を降参させます。魔王は「これからは人を食わず、稲を食べます。」と誓い九州高千穂に逃げ去ります。珍しく鬼が退治されず、道の途中で引き返し、また、悪道から善道に返る、というのが演目名の由来とされています。</p>	<p>春日神社はタケミカズチが祭神。桜江町は大元神楽のメッカだが、鹿賀地区を始め周辺の大貫、川越地区の秋祭りでは、八調子の社中が神楽を奉納している。</p>	島根県江津市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

毎7月12日 洪水のあと

しが
Shikaga
か
が

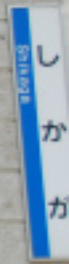
鹿賀駅江津方向



Shikaga
し
か
が

女子トイレ

鹿賀駅三次方向



鹿賀駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
因原	けんまい 剣舞	<p>【登場人物】 舞人^{まいびと}4人</p> <p>四方を清め、神々が集うことを願う儀式舞。</p> <p>小幣^{こへい}を手に持ち、それを笠に見立てて舞う四人舞で、袖を優雅にひるがえして舞う姿は美しい。</p> <p>「四神」とも言われ、四人の舞手は、東西南北それぞれの神をあらわしています。</p>	<p>因原神楽団は今年数十年ぶりに「剣舞」が復活予定。</p> <p>「～集まりたまえ四方の神々」とうたわれるように、各地の神楽が集結する「因原交流神楽大会」が毎年開かれている。</p>	<p>島根県 邑智郡 川本町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



因原駅江津方向



因原駅三次方向

剣舞 Kenmai
 C-PG&A

1. 本公演は、10月10日(土)19時30分、11日(日)14時、19時30分の3回公演です。

2. 本公演のチケットは、10月10日(土)19時30分公演のチケットが、11日(日)14時公演のチケットよりも、19時30分公演のチケットよりも、100円高くなります。

3. 本公演のチケットは、10月10日(土)19時30分公演のチケットが、11日(日)14時公演のチケットよりも、19時30分公演のチケットよりも、100円高くなります。

← 湯沢 L. 湯沢 → 前 湯沢 → 湯沢 丸 湯沢 →

因原駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
石見川本	はちまん 八幡	<p>【登場人物】 八幡麻呂<small>やほたまろ</small>（誉田別命<small>ほむたわけのみこと</small>） 第六天悪魔王<small>だいろくてんのあくまおう</small></p> <p>八幡の神・八幡麻呂が、欲望を司り人々を墮落させる第六天悪魔王という鬼を、弓矢の威徳<small>いどく</small>で退治します。</p> <p>鬼舞の基本的な舞いであり、鎧に身を包んだ凛々しい八幡麻呂と鬼の激しい動きが特徴です。</p>	<p>文化初年（1804年）頃、川本弓ヶ峰八幡宮・宮司三浦重賢<small>ゆみがみねはちまんぐう</small>が書いた神楽台本が、確認される最古のものである。</p>	<p>島根県 邑智郡 川本町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



石見川本駅三次方向



石見川本駅江津方向



石見川本駅(上りホーム)

八幡

寺で一ひまん

はちまん Hachiman

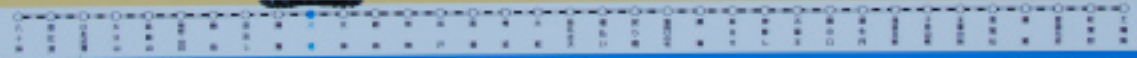


祭典
人物

八幡宮(宮田町) 第六天宮造

祭典
解説

八幡の神(八幡宮)が、遊覧を呼び人々を遊ばせる第六天宮造といふ舞を、何次の絶頂で舞おします。舞の基本的な舞いであり、舞に身を包んだ薄うしろ八幡宮と舞の美しい舞が特徴です。



← 剣舞 Kammai

八幡 はちまん Hachiman

Tenjin 天神 →

石見川本駅(下りホーム)

八幡

すてーしゅん

はちまん Hachiman

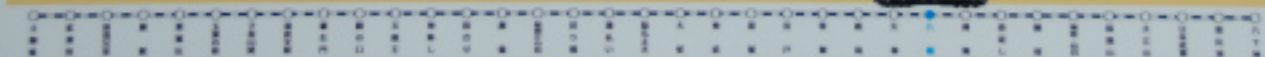


登場人物

八幡(八幡神)、八幡(八幡神)、八幡(八幡神)、八幡(八幡神)

演出

八幡の神・八幡神が、夜を待たせしめる第六天魔王という魂を、弓矢の威嚇で退治します。祝賀の華やかな舞いであり、顔に身を包んだ華々しい八幡神と魂の激しい闘いが特徴です。



← 天神 Tenjin

八幡 はちまん Hachiman

Kemmai 剣舞 →

石見川本駅(上りホーム)

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
木路原	天神	<p>【登場人物】 菅原道真 隨身 藤原時平（伴大納言）</p> <p>菅原道真は学才に優れ、驚異的な出世を遂げ、天皇の信頼も深いものでした。しかしそれを妬んだ藤原時平の嘘の告げ口によって、道真は無実の罪で九州大宰府に流され無念の死を遂げます。その後、都では天変地異が続き、時平をはじめ、流罪にかかわった人物が雷に打たれ相次いで命を落としたため、人々は道真の崇りと恐れ、北野に「天神」として祀り、以後学問の神として崇拝されています。</p> <p>神楽では、実際に道真と時平が刃を交えるダイナミックな筋立てになっています。</p> <p>地域によっては、時平ではなく伴大納言が悪役として登場します。</p>	<p>県内最大のムクノキがある「木路原天神宮」がある。天神宮は天神・菅原道真を祀った神社。</p>	島根県 邑智郡 川本町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

天神

すてーじまん

てんじん Tenjin



登場人物

鞍馬道真、藤原、藤原時平（偉大な敵）

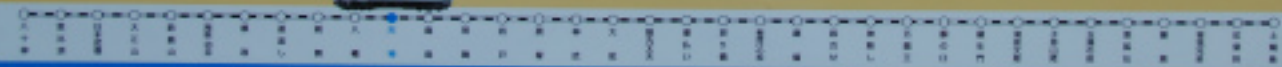


舞台解説

鞍馬道真は字子に獲れ、異母弟の出産を遂げ、天竺の信教も深いものでした。しかしそれを妬んだ藤原時平の陰謀の計りかたによって、道真は無罪の罪で九州大宰府に流され無念の死を遂げます。その後、都では天竺地獄が燃き、時平をはじめ、流罪にひきわたった人物が闇に打たれ殺されいひひを誣したため、人々は道真の祟りと恐れ、土野に「天満天神」として祀り、以後学問の神として崇拝されていきます。

神楽では、実際に道真と時平が刃を交えるダイナミックな舞立になっています。

地域によっては、時平ではなく伴大納言が舞台として登場します。



← 八幡 Hachiman

天神 てんじん Tenjin

Kashima 鹿島 →

木路原駅



色
ろ
は
心

木路原駅

木路原

Kurogane

天神 Gr. 10.14
Tenjin

天神祭

木路原 駅 →

木路原駅江津方向



JR 木路原
きらばら Kirihara



木路原駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
竹	<p style="text-align: center;">かしま 鹿島 くにゆず (国譲り)</p>	<p>【登場人物】 経津主命 武甕槌命 大国主命 建御名方命</p> <p>高天原(神々の世界)の使者として経津主命と武甕槌命は、出雲の国・大国主命のもとに降り立ち、豊葦原(地上界：日本の古名)を譲るよう迫ります。</p> <p>大国主は立派な社を建てることを条件に承諾しますが、2人の息子のうち、建御名方命は反対し、力比べを挑んできたので、経津主命が応戦します。大岩を手に取ったり、取っ組み合ったり激しく渡り合いますが、ついに建御名方命は降参し、国を譲るようになりました。</p> <p>そして物語は天孫降臨へと続いていきます。</p> <p>このとき国譲りの条件として立てられたのが出雲大社だと伝えられています。</p>	<p>市杵島姫神を祀る巖島神社の下に、「明神岩」があり水難厄除に功がある。</p> <p>鹿島神宮(茨城県)の下にも「要石」があり、地震の災難から守っているの、その点からの連想。</p> <p>祭神はタケミカズチの神であり、「竹」とのゴロもよい。</p>	<p style="text-align: center;">島根県 邑智郡 美郷町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

鹿島こし (国譲り) すてーひま

かしま Kashima

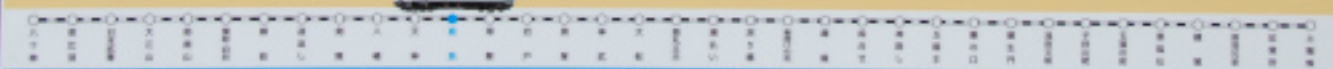


登場人物

経津主命、武甕槌命、大國主命、建御名方命

演出解説

高天原(神々の世界)の使者として経津主命と武甕槌命は、出雲の国・大國主命のもとに降り立ち、豊原原(地上界・日本の古名)を譲るよう語ります。大國主は立派な社を築くことを条件に承諾しますが、二人の息子のうち、建御名方命は反対し、力比べを挑んできたので、経津主命が圧倒します。大國主手に取ったり、取っ組み合ったり激しく語り合いますが、ついに建御名方命は降参し、国を譲ることになりました。そして物語は天孫降臨へと続いていきます。このとき国譲りの条件として立てられたのが出雲大社だと伝えられています。



← 天神 Tenjin 鹿島 かしま Kashima Obimai 帯舞 →

竹駅



竹駅江津方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
乙原	おびまい 帯舞	<p>【登場人物】 舞人<small>まいびと</small></p> <p>帯を持って舞う儀式舞。</p> <p>八幡<small>はちまん</small>の神が筑紫に誕生した時、白播四流<small>しろはたさんりゅう</small>、赤播四流<small>あかばたさんりゅう</small>が降りてきたという伝説に基づいています。</p> <p>そして、衣・食・住の神のうち、衣の神に感謝し、御心を慰め解きほぐし、やわらげる意味で舞われる舞と考えられています。</p> <p>今ではなかなか舞われる事の少ない、稀少な演目です。</p>	<p>地元神楽社中の乙原舞子連中は稀曲「帯舞」を保有。</p>	<p>島根県 邑智郡 美郷町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



乙原駅江津方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
石見築瀬	いわと 岩戸	<p>【登場人物】 天照大神<small>あまてらすおみかみ</small> 児屋根命<small>こやねのみこと</small> 太玉命<small>ふたたまのみこと</small> 宇津女命<small>うづめのみこと</small> 手力男命<small>たぢからおのみこと</small></p> <p>日本神話「天の岩戸」を神楽化したものです。 弟・須佐乃男命<small>すさのおのみこと</small>の数々の悪行<small>あくぎょう</small>に困り果てた天照大神は、天の岩戸に隠れてしまいます。 すると世の中は真っ暗闇になってしまったため、神々をはじめ万民<small>ばんみん</small>が嘆き悲しみました。そこで児屋根命・太玉命をはじめとする八百万<small>やおよそ</small>の神たちが相談し、宇津女命に神楽を舞わせ大いに騒ぎ、怪しんだ天照大神が岩戸を少し開けて覗き込んだところを、怪力の手力男命がこじ開け、世の中に再び明るい光が差すという物語です。 神楽の始まりを説く重要な演目として神聖視<small>しんせいし</small>されています。</p>	<p>古来石見三宮<small>さんのみや</small>と称された「天津神社<small>あまつ</small>」がある。 天津神<small>あまつ</small>・尊崇<small>そんすう</small>を集める神社であることから「岩戸」を連想。</p>	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



石見築瀨駅江津方向



石見築瀬駅三次方向

岩戸

すてーひょん



いわと Iwato



登場人物

天照大神、天照皇孫、太玉命、宇津姫命、手力御前

演出解説

日本神話「天の岩戸」を神楽化したものです。弟-高天原彦彦の数々の悪行に激怒して天照大神は、天の岩戸に隠れてしまいます。すると世の中は真っ暗になってしまったため、神々をはじめ万民が嘆き悲しまいました。そこで天照皇孫・太玉命をはじめ八百万

の神たちが相談し、宇津女命に神楽を舞わせ大いに騒ぎ、怪しんだ天照大神が岩戸を少し開けて覗き込んだところを、権力の手力御前がこじ開け、世の中に再び明るい光が差すという物語です。神楽の始まりを深く重要な節目として神聖視されています。



← 黒塚 Kurozuka

岩戸 いわと Iwato

Obimai 帯舞 →

石見築瀬駅



石見築瀬駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
明塚	くろづか 黒塚	<p>【登場人物】 法印 強力 姫 九尾狐 里人 三浦之介 上総之介</p> <p>陸奥国(栃木県)那須野ヶ原にさしかかった法印と強力<small>なすのがはら</small>の山伏一行は、一夜の宿を求めますが、なかなか見つかりません。ようやく迎え入れられたあばら家には、美しい女が住んでいました。しかしその正体は都を追われた金毛九尾<small>きんもうきゅうび</small>の悪狐<small>あくこ</small>。強力は食べられ、法印は逃げ帰ります。</p> <p>その後、弓の名人三浦之介・上総之介によって悪狐は退治されます。</p> <p>法印と強力のアドリブの楽しいやりとりと、九尾狐の妖しい凄みとのコントラストが魅力の演目です。</p>	<p>塚とのゴロからの連想。</p> <p>黒塚における法印と強力のやりとりは笑いを誘い、見る人に元気を与える。</p> <p>明塚には発電所がある。黒塚の笑いとともにいつまでも人々のエネルギーの源であってほしい。</p>	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



明塚駅江津方向



あ
か
つ
か
Akatsuka

あかつか

あかつか

あかつか

あかつか

あかつか

明塚駅三次方向

黒塚

くろづか Kurozuka

すてーじまん

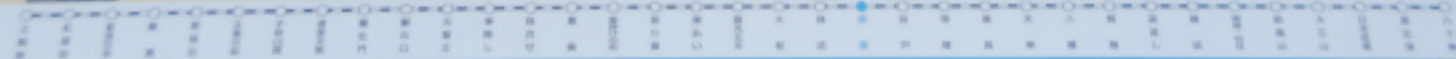


登場人物

彦作、権五、菊、万理屋、徳次、三浦之介、上柳之介

演出

福満山(船木屋)船木屋と豊にたしかつた彦作と権力の山伏一行は、一夜の宿を求めますが、なかなか見つかりません。ようやく宿え入れられたおばら屋には、美しい女が住んでいました。しかし、その女は顔を変われた黒毛天馬の悪魔、権力は食べられ、法印は逃げ帰ります。その後、可成り人三浦之介・上柳之介によって悪魔は退治されます。法印と権力のアドリアの楽しいやわとりと、九尾狐が似し、権五とのコントラストが魅力の演出です。



← 神武 Jimmu

黒塚 くろづか Kurozuka

hwato 岩戸 →

明塚駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
粕淵	じんむ 神武	<p>【登場人物】 神日本磐余彦命(神武天皇) 従者 長髓彦 手下</p> <p>神武天皇の建国神話の神楽化。 磐余彦命は理想郷を求め九州日向を発ち、東に良き地を求めて進軍します。船に乗り荒波を渡り、険しき山を越え、様々な困難が行く手を阻みますが、八咫鳥の導きにより、大和の国(奈良県)にたどり着きます。そこでは豪族・長髓彦の軍が激しく抵抗しますが、激しい戦いの末討ち破り、畝傍山の麓・檀原の地に宮を築いて王位につき、第一代神武天皇となります。</p> <p>2神・2悪の4人が激しく刃を交える迫力のある神楽です。</p>	<p>「カヌーの里おおち」や「ゴールデンユートピアおおち」があり、理想郷を求め船に乗って東に向かった神武神話の壮大な浪漫を感じる。</p>	<p>島根県 邑智郡 美郷町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



粕淵駅江津方向



粕淵駅三次方向



神武 2024

GAMI Jimmu

1 神武 (GAMI) 2024.07.17

2 神武 (GAMI) 2024.07.18

3 神武 (GAMI) 2024.07.19

4 神武 (GAMI) 2024.07.20

神武

← 嵐 嵐
神武
嵐 嵐 →

粕淵駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
浜原	おろち 大蛇	<p>【登場人物】 須佐乃男命 足名槌 手名槌 稲田姫 7番目の姫 八岐大蛇</p> <p>日本神話のクライマックス「八岐大蛇」を神楽化したものです。出雲国斐伊川上流に住む足名槌・手名槌の老夫婦には8人の娘がいましたが、毎年八岐大蛇に襲われ、とうとう稲田姫一人を残すのみとなり、嘆き悲しんでいました。そこへ通りかかった須佐乃男命は事情を聞き、大蛇退治を決意。大蛇に毒酒を吞ませ、酔い伏したところに剣を振りかざしズタズタに退治します。そして稲田姫とめでたく結ばれたのでした。</p> <p>リアルな動きを表現する「蛇胴」は竹と和紙で出来ており、全長はなんと18mもあります。入り乱れて火を噴く姿は大迫力、まさに石見神楽を代表する演目です。</p>	<p>県内有数の浜原ダムがある。</p> <p>「大蛇」は斐伊川氾濫の治水が基になったとされ、浜原ダムは「中国太郎（江の川）」治水の要であることから連想。</p>	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



浜

2

大蛇

浜原駅江津方向



JR

浜原

はまはら Hamahara

← かすぶち
Kasubuchi

さわだに
Sewadani →

浜原駅三次方向

大蛇

おろち Orochi

すてーひゃん

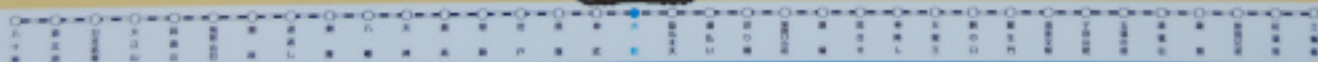


登場人物

演法乃勇富、倉名屋、平名屋、編出屋、アサキの郎、八咫大蛇

演目解説

日本神話のクライマックス「八咫大蛇」を神楽化したものです。出雲国彦伊豆上流に住む足名雄・手名雄の老夫婦には五人の娘がいましたが、毎年八咫大蛇に襲われ、とうとう頼田郎一人を残すのみとなり、嘆き苦しんでいました。そこへ通りかかった演法乃勇富は事情を聞き、大蛇退治を決定。大蛇に毒酒を呑ませ、酔い伏したところに罾を張りかざしズタズタに退治します。そして頼田郎とめでたく結ばれたのでした。リアルな動きを表現する「蛇舞」は竹と和紙で出来ており、全長はなんと18mもあります。入り乱れて火を燃く姿は大迫力。まさに石見神楽を代表する演目です。



← 神武 Jimmu

大蛇 おろち Orochi

Sanmanudayū 猿丸大夫 →

浜原駅(下りホム)

大蛇

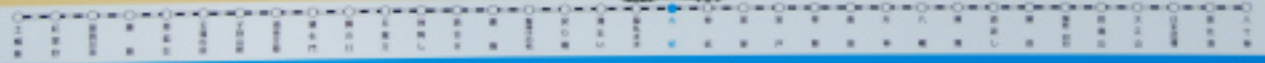
おろち Orochi

すてーむまん



登場人物 須佐之男命、息名姫、手名姫、稲田姫、7番目の蛇、八岐大蛇

演目解説 日本神話のクライマックス「八岐大蛇」を神楽化したものです。出雲国伊弉比上流に住む巨名姫・手名姫の老夫婦には五人の子がいましたが、毎年八岐大蛇に襲われ、とうとう稲田姫一人を残すのみとなり、嘆き悲しんでいました。そこへ通りかかった須佐乃男神は事情を聞き、大蛇退治を決意。大蛇に毒酒を呑ませ、酔い伏したところに剣を振りかざしズタズタに退治します。そして稲田姫とめでたく結ばれたのです。リアルな驚きを表現する「蛇身」は竹と和紙で作られており、全長は毎人と100cmあります。入り乱れて火を噴く姿は大迫力。まさに石見神楽を代表する演目です。



← 猿丸太夫 Sarumarudayū 大蛇 おろち Orochi Jimmu 神 武 →

浜原駅(上りホーム)

話

大蛇 Great Snake

2015 Great

大蛇は、日本各地に伝わる伝説的な生物で、蛇の体を持ちながら人間の顔や手足を持つ。大蛇は、古くから日本各地に伝わる伝説的な生物で、蛇の体を持ちながら人間の顔や手足を持つ。大蛇は、古くから日本各地に伝わる伝説的な生物で、蛇の体を持ちながら人間の顔や手足を持つ。



← 湯元温泉 Onsen no Uchi | 大蛇 | Arima 湯元温泉 →

浜原駅(上りホーム)

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
沢谷	ざるまる 猿丸太夫	<p>登場人物 <small>ざるまるだゆう</small> 猿丸太夫 <small>じゆうしや</small> 従者 <small>あき ひめ</small> 秋姫 <small>とうぞく</small> 盗賊</p> <p><small>てんも</small>天武天皇に仕える猿丸太夫は、石見の国司として下ってきますが、途中、娘の秋姫を盗賊に奪われてしまいます。秋姫を取り戻すため盗賊と闘いますが、その闘いの中で過って太夫自らの手で秋姫の命を奪ってしまいます。秋姫の無念を晴らすため険しい山中をさまよい歩き、盗賊の岩屋を見つけ、見事盗賊を討ち滅ぼします。</p> <p>地元の伝説をもとに創作された新作演目です。</p>	<p><small>ちはらかでらだん</small>地元・千原神楽団が創作し演じているこの演目。主人公・猿丸太夫は柿本人麻呂を彷彿とさせ、人麻呂終焉地「鴨山」が美郷だとする齊藤茂吉説に思いを馳せる、この地ならではの創作神楽ではないだろうか。</p>	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

猿丸太夫 すてーじまん

さるまるだゆう Sarumarudayū



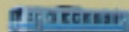
登場人物

猿丸太夫、岩崎、岩崎、岩崎

演目解説

天武天皇に仕える猿丸太夫は、石見の国司として下ってきますが、途中、岩の秋姫を盗難に巻きつけてしまいます。秋姫を取り戻すため盗賊と闘いますが、その闘いの中で誤って太夫自らの手で秋姫の命を奪ってしまいます。秋姫の復讐を晴らすため険しい山中を

さまよい歩き、盗賊の刃を免れ、見事盗賊を打ち滅ぼします。地元の名匠をもとに創作された新作演目です。



← 大蛇 Orochi

猿丸太夫 さるまるだゆう Sarumarudayū

Shioharai 潮払い →

沢谷駅



沢谷駅江津方向

JR 沢谷
さわだに Sawadani
← はまはら Hamahara →
ういお Uio

沢谷駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
潮	しおほら 潮払い	<p>【登場人物】 舞人<small>まいびと</small></p> <p>神楽を奉納するにあたり、舞台である「舞殿<small>まいでん</small>」を浄め、神々の降臨<small>こうりん</small>を願う舞です。幣と扇を持って舞う一人舞いで、基本的な舞の型が込められています。</p> <p>二人での連舞<small>つれまい</small>の場合も増えてきました。</p>	<p>潮払い歌「西の海清<small>あらし</small>き新潮汲み上げて 払い清<small>きよ</small>むる神殿<small>こうどの</small>の内」</p> <p>近くにある潮温泉<small>しお</small>で、身も心も清めてリフレッシュ。</p>	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



潮駅江津方向



潮駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
石見松原	もど ばし 戻り橋	<p>【登場人物】 源頼光 渡辺綱 坂田金時 傘売り善兵衛 老婆 (茨木童子の化身) 茨木童子 酒呑童子</p> <p>平安時代、京の都において、戻り橋や羅生門に夜な夜な鬼が出没し、人々を苦しめていました。</p> <p>そんな中、傘売りの善兵衛が荷いをしますがなかなか売れず、あきらめたとき、一人の老婆が傘を求めてきます。快く傘を受け渡しますが、その正体は茨木童子という鬼でした。危うく襲われかけたとき、渡辺綱という武士が登場、茨木童子に戦いを挑みます。すると茨木童子は親分の酒呑童子を呼び出し大ピンチに。しかしそこへ坂田金時が加勢に来て、壮絶な戦いを繰り広げます。最後に綱が茨木童子の左腕を切り落とすと、鬼たちは虚空飛天の妖術で住処の大江山に逃げていきます。</p>	旧大和村は個性的な吊り橋などが7つ存在。	島根県 邑智郡 美郷町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



石見松原駅江津方向

JR 石見松原
いづみまつばら Iwami-Matsubara
← 宇治 Utsunomiya
いづみまつばら Iwami-Matsubara →



石見松原駅三次方向

戻り橋

もどろばし Madoribashi

7-1000



2014. 2016. 2018. 2020年
 祝 10月10日(土) 10月11日(日)

10月10日(土) 10月11日(日) 10月12日(月) 10月13日(火) 10月14日(水) 10月15日(木) 10月16日(金) 10月17日(土) 10月18日(日) 10月19日(月) 10月20日(火) 10月21日(水) 10月22日(木) 10月23日(金) 10月24日(土) 10月25日(日) 10月26日(月) 10月27日(火) 10月28日(水) 10月29日(木) 10月30日(金) 10月31日(土)

← 津山 Dama → 戻り橋 Madoribashi → 1000: 養老けの松 →

石見松原駅

戻り橋

もどりばし Modoribashi

すてーむふん



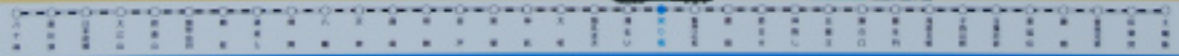
登場人物

源朝光、源公綱、源公経、源光の義貞、源朝（茨木童子の土着）、茨木童子、源朝童子

物語解説

平安時代、京の都において、戻り橋や露屋門に姿を現す者が出現し、人々を苦しめていました。

そんな中、源朝りの源朝光が現れますがなかなか先陣を、交わらぬとき、一人の老翁が命を授けてくれます。かく命を受け返しますが、その正体は茨木童子という鬼でした。度々く襲われかけたとき、源朝光という武士が登場、茨木童子に戦いを挑みます。すると茨木童子は自分の首を切り落とすので、しかしそこへ源朝光が加勢に来て、仕掛な戦いを繰り広げます。最後に源朝光が茨木童子の首を切り落とすと、果たちは源朝光の眼前で仕舞の大山山に逃げています。



← 瀬払い Shiharai

戻り橋 もどりばし Modoribashi

Kirikake no Matsu 髪掛けの松 →

石見松原駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
石見都賀	髪掛の松 <small>かみか まつ</small>	<p>【登場人物】 玄太夫宗利<small>げんたゆうむねとし</small> 明日香姫<small>あすかひめ</small> 水無月<small>みなづき</small> 小笠原長親<small>おがさわらながちか</small> 美夜姫<small>みやひめ</small></p> <p>この物語は美郷町・蟠龍峡<small>ばんりゅうきょう</small>に伝わる伝説を神楽化したものです。鎌倉時代末期、石見初代小笠原四郎三河の守長親は足利の軍勢との合戦で功績のあった重臣、玄太夫宗利に恩賞として明日香姫を妻と与えます。しかし、宗利に好意を抱いていた小間使の水無月は、明日香姫を妬んで毒を盛ったため、明日香姫は醜い姿に。宗利は次第に妻を疎み、水無月に心惹かれていきます。明日香姫は水無月に恨みを晴らすべく、水無月を蟠龍峡へ誘い出し、激しい争いになりますが、差し違えたまま深淵<small>しんえん</small>に吞まれ果てていきます。そのとき、一本の松に髪が掛かり、残りました。二人を追って来た宗利は、自らの振る舞いを悔い、自害します。その時、深淵に果てた明日香姫の怨霊が現れ、宗利を伴って昇天し、他界へと導いて行きます。長親とその妻・美夜姫はそれぞれの御魂<small>みたま</small>を滝の明神として合祀<small>ごうし</small>するという悲恋の物語です。</p>	<p>この演目は地元・都神楽団<small>みやごかぐらだん</small>が取り組んでおり、年に1回蟠龍峡<small>ばんりゅうきょう</small>で上演される。</p>	<p>島根県 邑智郡 美郷町</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



石見都賀駅江津方向



石見都賀駅三次方向

髪掛けの松

すてーどん

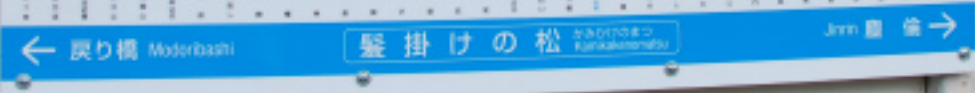
かみかけのまつ Kamikakenomatsu

登場人物

玉衣高砂丸、おのれ娘、お前目、
千太郎高丸、おまめ

演出

この演劇は、毎年11月10日(土)に都賀町立
文化センターで開催される。この演劇は、
都賀町の歴史と文化を伝えるための活動
として、毎年開催されている。この演劇は、
玉衣高砂丸、おのれ娘、お前目、千太郎高丸、
おまめが出演する。この演劇は、都賀町の
歴史と文化を伝えるための活動として、毎年
開催されている。この演劇は、玉衣高砂丸、
おのれ娘、お前目、千太郎高丸、おまめが
出演する。この演劇は、都賀町の歴史と文化
を伝えるための活動として、毎年開催されて
いる。この演劇は、玉衣高砂丸、おのれ娘、
お前目、千太郎高丸、おまめが出演する。



← 戻り橋 Wadaihashi

髪掛けの松 10 Kamikakenomatsu

Jinn 園 備 →

石見都賀駅(上りホーム)

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
宇都井	じんりん 塵倫	<p>【登場人物】 仲哀天皇^{ちゆうあいてんのう} 高麻呂^{たかまろ} 塵倫^{じんりん}</p> <p>「塵倫」という翼がある鬼が、異国から攻めてきて、空を飛び廻って人々を襲うので、第14代^{みかど}の帝・仲哀天皇が家臣・高麻呂とともに弓矢で射止めます。</p> <p>仲哀天皇は神話の英雄・日本武尊^{やまとけるのみこと}の第二子です。</p> <p>この神楽は鬼舞の代表的な人気演目ですが、地域によって解釈は様々。三江線沿線の神楽ルートでも、様々な姿の塵倫を見ることが出来ます。</p>	<p>宇都井駅は、地上からホームまでの高さが20メートルもあり「天空の駅」と称されている。見晴らしのいいホームで天空を駆け回る「塵倫」の気分を味わってみては。「塵倫」と「宇都井駅」の人気のコラボ。</p> <p>石見神楽での独特な「阿須那手^{あすな}」という流派は、現在雪田神楽団がその伝統を守っている。この「阿須那手」が広島に伝わりさらに変遷していく。毎年11月3日には阿須那神楽共演大会が開催される。</p> <p>また、この地域に残る宇都井神楽保存会が、5年に1度の年季祭^{でんがひ}で「天蓋舞」を披露している。</p>	島根県 邑智郡 邑南町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



塵倫 Chun Lun

2014. 08. 04

● 本日は、宇都井駅に「塵倫」のポスターを掲示しました。このポスターは、宇都井駅に設置された「宇都井駅」のポスターの一部です。このポスターは、宇都井駅に設置された「宇都井駅」のポスターの一部です。このポスターは、宇都井駅に設置された「宇都井駅」のポスターの一部です。

← 宇都井駅 74*830M →

停車場中心
74*830M

う
づ
い

宇都井駅



宇都井駅江津方向



宇都井駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
伊賀和志	すずあわ 鈴合せ	<p>【登場人物】舞人^{まいびと} 4人</p> <p>この舞は、鎌倉時代、静御前^{しずかごぜん}が鶴ヶ岡八幡宮で演じた舞を取り入れ構成したと伝えられています。</p> <p>八種類の舞で構成され、一の舞二の舞を「四花の舞」、三の舞を「静の長唄」、四の舞を「めぐし」、五の舞を「かけりしず」、六の舞を「四季の舞」、七の舞を「くみづえの舞」、八の舞を「八花の舞」と称し、これらを集めて一つの舞としていることから、「八寄^{やよせ}」、さらに転じて別名「やよし」と言われています。</p>	<p>伊賀和志神楽団^{いかわしからだん}の「鈴合せ」は広島県無形民俗文化財に指定されている。</p> <p>「鈴合せ」の装束は狩衣，烏帽子。採り物は剣，杖，鈴で，4名によって舞われている。</p> <p>毎年5月には伊賀和志神楽団・作木町自治連合会が中心となって無形民俗文化財指定神楽団 「さくぎ共演大会」を作木町内で開催されている。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

錦合せ
 すずめわらじ 2018 Suzumewaraji 2018

← 伊賀和志駅 Iga Washi Station 伊賀和志 Iga Washi 伊賀和志駅 Iga Washi Station →

伊賀和志駅



伊賀和志駅江津方向



伊賀和志駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
口羽	かみおろ 神降し	<p>【登場人物】 舞人</p> <p>神楽奉納の始めに舞われる儀式舞です。「深山の真榊」「百浦の潮」という清浄な物で、神楽殿の四方と中央を清め、神々をお招きするという神聖な演目であり、厳かに大切に舞い継がれています。</p>	<p>「口羽」はこの地域が出羽川の下流域に位置していたことから”出羽川流域の入口”の意。</p> <p>「神降し」は神楽奉納に際し神々を願って舞われる”神楽奉納の入口”</p> <p>口羽わんぱく館では毎年「里神楽」が開催され、近隣5団体が集い舞を披露する。</p> <p>「神降し」で口羽の鎮守”宮尾山八幡宮”からも神が里に降りてきます。</p>	島根県 邑智郡 邑南町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



口羽駅江津方向



口羽駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
江平	こりゅうおう 五龍王	<p>【登場人物】 青体青竜王 赤体赤龍王 白体白龍王 黒体黒龍王 黄体黄龍王 黄龍王の使い 文選博士</p> <p>青赤白黒の4人兄弟の龍王達は東西南北と四季を司っていました。しかし末子の黄龍王には何も領分がなく、その「使い」が「領分を分けてほしい」と尋ねてきますが、追い返します。いよいよ黄龍王が荒々しく登場し、領地を分けるよう迫りますが、四節などの哲理を論じて退けられ、ついに怒った黄龍王は兵を挙げます。兄達もそれぞれ数十万の軍勢を集め、天地を揺るがす大戦乱となります。</p> <p>しかし、最後は天界から降り来た文選博士が、土用と中央を新たに分配し、五等分に収めるという壮大な物語です。</p> <p>口上は膨大で、四季や農事に因んだ哲学が組み込まれている重要な演目です。</p>	<p>近くに地域住民と都市住民の交流の場「龍王塾」があり農作業体験実習等の拠点となっている。</p> <p>育った環境が違い領地争いを繰り広げた五龍王たちが和解し、共生していく姿は、どこか地域・都市交流と通じるものがある。</p>	島根県 邑智郡 邑南町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

江線 標準時刻
S Line Timetable

口羽・江津 方面
for Kuchiba, Gōtsu

行先	行先	行先	行先
口羽	口羽	口羽	口羽
江津	江津	江津	江津
...

江津線 時刻表

行先	行先	行先	行先
...

乗車賃

区間	乗車賃	区間	乗車賃
口羽 - 江津	230	江津 - 口羽	480
...

五龍王 ごりゅうおう Goryūō

ごりゅうおう Goryūō



五龍王は、口羽・江津方面の伝統行事で、毎年10月に行われます。この行事は、五頭の龍を模した舟に乗って、川を流すのが特徴です。舟には、龍の頭部を模した飾りや、提灯などが飾られ、大勢の観衆が沿道で応援します。舟は、川を流れる間に、舟内では音楽や踊りが行われ、観衆も一緒に盛り上がります。この行事は、地域の文化を伝えるだけでなく、観光客にも人気があります。

開催日時: 10月1日(土) 10時～15時
開催場所: 口羽・江津方面

お問い合わせ: 0942-22-2222

← 口羽 江津 →



道路案内
お出かけの参考にしてください。

さっさと つめて おしまい!



お出かけの参考にしてください。

代行輸送時のご案内

事故又は天候等で、タクシー代行輸送を行なう場合は駅前でお待ち下さい。

なお、バス代行の場合は、国道375号線丹波橋付近にてお待ち下さい。

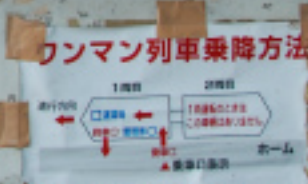
駅放送案内等でご確認下さい。

問い合わせ: 0942-22-2222
0942-22-2222

終日禁煙



ワンマン列車乗降方法



乗車時は、1両目の乗降ドアから乗車して下さい。
降車時は、1両目の乗降ドアから降車して下さい。
列車発着時は、2両目のドアは開きません。

江平駅

江平駅

江平駅江津方向



江平駅三次方向

五龍王

すてーむん

ごりゅうおう Goryūō

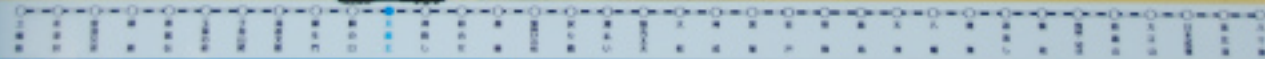


登場人物

青体五龍王、赤体五龍王、白体五龍王、黒体五龍王、
黒体五龍王、黒龍王の使、文藝博士

演劇解説

青赤白黒の4人兄弟の五龍王は東西南北と四季を司って
いました。しかし末子の黒龍王には何も継分がなく、その
「使」が「継分を分けてほしい」と仰いできますが、遠い道
します。いよいよ黒龍王が首をたくて叛し、継分を分ける
よう迫りますが、四龍などの管理を論じて退けられ、つい
に怒った黒龍王は兵を挙げます。足踏もそれぞれ数数万の
軍勢を集め、天地を揺るがす大戦乱となります。
しかし、最後は天酒から降り来た文藝博士が、土扇と中央
を扇たに分配し、五等分に収めるという壮大な物語です。
口上は膨大で、四季や農事に民んだ哲学が凝み込まれて
いる貴重な演目です。



← 調の口 Dōnokuchi

五龍王 ごりゅうおう Goryūō

Kamioroshi 神降し

江平駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
作木口	胴 <small>どう</small> の口 <small>くち</small>	<p>【登場人物】 奏<small>そう</small>楽<small>がく</small> 大太鼓<small>おおだいこ</small> 小太鼓<small>こだいこ</small> 手打鉦<small>てうちがね</small> 笛<small>ふえ</small></p> <p>囃<small>はやし</small>子<small>こ</small>方<small>かた</small>だけで演じられる神楽で、最初は厳<small>おご</small>かに、中頃は優雅に、後段は華やかに演奏され、全ての神楽囃<small>はやし</small>子が組み込まれています。</p> <p>かつては奉納神楽において始めに奏された演目です。</p>	<p>駅名は広島県三次市の作木地区（旧・作木村）への入り口であることに由来。</p> <p>胴<small>どう</small>の口<small>くち</small>は太鼓の奏楽だけの神楽で、もともと神楽のはじめに演じられていた、神楽の入口となる演目である。</p>	島根県 邑智郡 邑南町

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



作木口駅江津方向



作木口駅三次方向

洞の口 Tsu-no-Kuchi

洞の口 Tsu-no-Kuchi

- ① 洞の口 Tsu-no-Kuchi
- ② 洞の口 Tsu-no-Kuchi

← 公衆入口 Public Entrance 観覧 観望台 Auditorium 観望台 →

作木口駅

胴の口

すてーひまわ



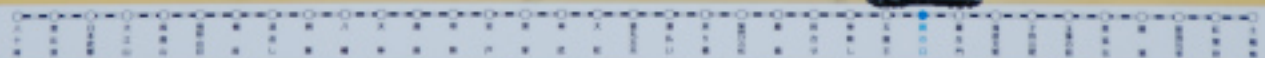
どうのくち Dōnokuchi

登場人物

音楽・天太鼓、小太鼓、手打鼓、笛

演目解説

藩士方だけで演じられる神楽で、最初は静かに、中頃は豪壮に、最後は華やかに演奏され、全ての神楽唄子が揃い込まれています。かつては奉納神楽において最後に奏された演目です。



← 五龍王 Goryūō

胴の口 どうのくち Dōnokuchi

Rashōmon 羅生門 →

作木口駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
香淀	らしょうもん 羅生門	<p>【登場人物】 源頼光 渡辺綱 乳母白妙 酒呑童子 茨木童子</p> <p>「戻り橋」において左の腕を切り取られた茨木童子の為、鬼の大将・酒呑童子は腕を切った張本人である渡辺綱の乳母に化け、まんまと綱の館に忍び込み、腕を取り返して茨木童子にもみ付けます。</p> <p>事態に気づいた綱は戦いを挑みますが、鬼の妖術に苦戦。主君の源頼光も駆けつけますが、鬼達は虚空飛天の術で住処の大江山に逃げていきます。</p>	<p>駅がある地は門田地区。</p> <p>この門をくぐって本格的に広島神楽圏域へ入っていくのだ。</p> <p>茨木童子の腕が再生したように、ふるさと創生を願って。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

羅生門

らしょうもん Rashōmon

すてーじょん



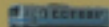
登場人物

源頼光、源三郎、丸山忠晴、源右衛門、源左衛門

演劇規則

「羅生門」において左の劇を切り取られた源左衛門の姿、右の大將・源右衛門は劇を知った源左衛門の姿に扮して、丸山忠晴の姿に扮して、源右衛門の姿に扮して源左衛門にも扮します。

劇中に登場する人物は数多くありますが、丸山忠晴に扮した、源三郎の姿も扮付けますが、丸山忠晴は遠くから丸山忠晴の姿に扮して見守ります。



← 胴の口 Dōnokuchi

羅生門 らしょうもん
Rashōmon

Takiyashahime 滝夜叉姫 →

香淀駅

A white board with a train schedule or information. The board is mounted on the wall of the platform. It contains text and numbers, but the details are not clearly legible. The board is positioned to the left of the poster.

香淀駅江津方向



羅生門
RASHOMON
1950年11月10日公開
1950年11月10日公開

100 Yen

羅生門

香淀駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
式敷	たき やしゃ ひめ 滝夜叉姫	<p>【登場人物】 <small>おおやのちゆうじょうみつくに</small> 大宅中将光圀 <small>じゆうしや</small> 従者 <small>たきやしゃひめ</small> 滝夜叉姫 <small>やしゃまる</small> 夜叉丸 <small>くもまる</small> 蜘蛛丸</p> <p>天慶<small>てんけい</small>の乱で討たれた平将門<small>たいらまさかど</small>の娘・五月姫<small>さつきひめ</small>は父の無念を晴らすため、京都貴船明神<small>きょうときふねみょうじん</small>に願掛けし、妖術<small>まじゆ</small>を授かります。その後「滝夜叉姫」と名を変え、夜叉丸・蜘蛛丸と共に「相馬城<small>そうま</small>」を根城<small>ねじろ</small>に謀反<small>くわだ</small>を企てます。しかし、陰陽師<small>おんみょうし</small>大宅中将光圀によって妖術は破られ、鬼女<small>おにめ</small>となって立ち向かいますが、あえなく討ち取られてしまいます。</p> <p>美しい姫から一瞬にして鬼に変化する技が冴える人気演目です。</p>	<p>広島を代表する新舞は安芸高田市で生まれた。 滝夜叉姫は紅葉狩と並んで新舞を代表する演目。</p>	<p>広島県 安芸高田 市</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



式敷駅江津方向

滝夜叉姫 たきやしあひめ
 たきやしあひめ Takiyashime



2019年 10月 10日(土) 18時00分～20時00分
10月 11日(日) 10時00分～12時00分

10月 12日(月) 10時00分～12時00分
10月 13日(火) 10時00分～12時00分

10月 14日(水) 10時00分～12時00分
10月 15日(木) 10時00分～12時00分

10月 16日(金) 10時00分～12時00分
10月 17日(土) 10時00分～12時00分

10月 18日(日) 10時00分～12時00分
10月 19日(月) 10時00分～12時00分

10月 20日(火) 10時00分～12時00分
10月 21日(水) 10時00分～12時00分

10月 22日(木) 10時00分～12時00分
10月 23日(金) 10時00分～12時00分

10月 24日(土) 10時00分～12時00分
10月 25日(日) 10時00分～12時00分

10月 26日(月) 10時00分～12時00分
10月 27日(火) 10時00分～12時00分

10月 28日(水) 10時00分～12時00分
10月 29日(木) 10時00分～12時00分

10月 30日(金) 10時00分～12時00分
10月 31日(土) 10時00分～12時00分

11月 1日(日) 10時00分～12時00分
11月 2日(月) 10時00分～12時00分

11月 3日(火) 10時00分～12時00分
11月 4日(水) 10時00分～12時00分

11月 5日(木) 10時00分～12時00分
11月 6日(金) 10時00分～12時00分

11月 7日(土) 10時00分～12時00分
11月 8日(日) 10時00分～12時00分

11月 9日(月) 10時00分～12時00分
11月 10日(火) 10時00分～12時00分

11月 11日(水) 10時00分～12時00分
11月 12日(木) 10時00分～12時00分

11月 13日(金) 10時00分～12時00分
11月 14日(土) 10時00分～12時00分

11月 15日(日) 10時00分～12時00分
11月 16日(月) 10時00分～12時00分

11月 17日(火) 10時00分～12時00分
11月 18日(水) 10時00分～12時00分

11月 19日(木) 10時00分～12時00分
11月 20日(金) 10時00分～12時00分

11月 21日(土) 10時00分～12時00分
11月 22日(日) 10時00分～12時00分

11月 23日(月) 10時00分～12時00分
11月 24日(火) 10時00分～12時00分

11月 25日(水) 10時00分～12時00分
11月 26日(木) 10時00分～12時00分

11月 27日(金) 10時00分～12時00分
11月 28日(土) 10時00分～12時00分

11月 29日(日) 10時00分～12時00分
11月 30日(月) 10時00分～12時00分

12月 1日(火) 10時00分～12時00分
12月 2日(水) 10時00分～12時00分

12月 3日(木) 10時00分～12時00分
12月 4日(金) 10時00分～12時00分

12月 5日(土) 10時00分～12時00分
12月 6日(日) 10時00分～12時00分

12月 7日(月) 10時00分～12時00分
12月 8日(火) 10時00分～12時00分

12月 9日(水) 10時00分～12時00分
12月 10日(木) 10時00分～12時00分

12月 11日(金) 10時00分～12時00分
12月 12日(土) 10時00分～12時00分

12月 13日(日) 10時00分～12時00分
12月 14日(月) 10時00分～12時00分

12月 15日(火) 10時00分～12時00分
12月 16日(水) 10時00分～12時00分

12月 17日(木) 10時00分～12時00分
12月 18日(金) 10時00分～12時00分

12月 19日(土) 10時00分～12時00分
12月 20日(日) 10時00分～12時00分

12月 21日(月) 10時00分～12時00分
12月 22日(火) 10時00分～12時00分

12月 23日(水) 10時00分～12時00分
12月 24日(木) 10時00分～12時00分

12月 25日(金) 10時00分～12時00分
12月 26日(土) 10時00分～12時00分

12月 27日(日) 10時00分～12時00分
12月 28日(月) 10時00分～12時00分

12月 29日(火) 10時00分～12時00分
12月 30日(水) 10時00分～12時00分

12月 31日(木) 10時00分～12時00分

← 子持山姥 komochiyamaaba
滝夜叉姫 takiyashime
Kashimori 養生門 →

式敷駅(下りホーム)

滝夜叉姫 すてーひょん

たきやしやひめ Takiyashahime



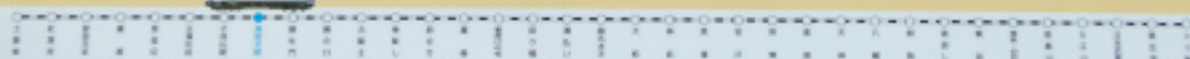
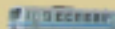
登場人物

天狗河原左衛門、役者、
黒命守郎、金立天、徳森元

演目
概説

天龍の虎で討たれと甲斐守の娘・古月姫は父の無断を執り出すため、
河原渡船岡崎に嫁入りし、妖術を操ります。その縁「滝夜叉姫」と
名を貰え、夜叉丸・機嫌丸と共に「福所城」を襲撃に敢て立ちます。

しかし、最期は大河中河丸によって妖術は破られ、鬼女となって立ち向かいますが、あえなく討ち取られてしまいます。
美しい顔から一瞬にして鬼に変化する姿が恐ろしい人気演目です。



← 子持山姥 Komochiyamauba

滝夜叉姫 たきやしやひめ Takiyashahime

Rashōmon 羅生門 →

式敷駅(下りホーム)

滝夜叉姫 すてーむえん

たきやしあひめ Takiyashahime



登場人物

天童早夜叉姫、夜叉、
湯女五郎、お文丸、お水丸

演目解説

天童の里で討たれた平将門の娘・お月姫は次の無念を晴らすため、
京鞍馬越前守に討殺し、其母を慰むります。その後「滝夜叉姫」と
名を変え、湯又丸・湯孫丸と共に「新田組」を助戦に活躍をします。

しかし、最終は大やけ時河原によって狂乱は収められ、湯女となって生
き別れますが、お文丸は打ち死んでしまします。
美しい姿から一瞬にして鬼に変わるとする狂が深まる人気演目です。

17世紀



← 羅生門 Rashūmon

滝夜叉姫 たきやしあひめ Takiyashahime

Komochiyamauta 子持山姥

式敷駅(上りホーム)

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
信木	こもち やまうば 子持山姥	<p>【登場人物】 <small>みなもとのらいこう</small> 源頼光 <small>うすいさだみつ</small> 碓井貞光 <small>やまうば</small> 山姥 <small>かいどうまる</small> 怪童丸</p> <p>東国を平定に向かう源頼光と渡辺綱。信州（長野県）<small>あけのやま</small> 明野山で宿を求めた場所は、山姥の屋敷でした。山姥は息子・怪童丸とともに人をだましては財宝を奪う山賊であり、夜更け、頼光らに襲い掛かります。</p> <p>激しい戦いの末、とうとう頼光達の武勇に屈した二人。山姥は、昔、都の武士の妻であり、夫亡き後都を追われた悲しい身の上である事を語り、「我が子だけは」と怪童丸の助命を必死に乞います。親子の情にうたれた頼光は怪童丸の腕を見込み、家来にします。そして山姥は奥山に姿を消すのでした。</p> <p>怪童丸はのちに「坂田金時」となり四天王として大活躍します。子を思う母の姿に思わずホロリとしてしまう演目です。</p>	<p>山姥のように、我が子が都会に出て活躍しているケースも多いのでは。</p> <p>しかし三江線筋には元気なおじいちゃんやおばあちゃんが 多いのが魅力だ。</p>	<p>広島県 安芸高田 市</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



信木駅江津方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
所木	たまも まへ 玉藻の前	<p>登場人物 坂部庄司蔵人 金毛九尾狐 玉藻の前 桜の前 安倍 清明泰親 関白藤原忠道 賀茂明神巫女</p> <p>平安時代、天竺（インド）や唐（中国）で国家を揺るがした金毛九尾狐が日本に渡来し、坂部庄司蔵人の娘に乗り移って「玉藻の前」を名乗ります。成長するにつれその美貌は増し、ついに鳥羽上皇の寵愛を一身に受けるようになります。しかし上皇は次第に身心が衰弱したため、陰陽師・安倍清明泰親は玉藻の前に詰め寄りますが、言葉巧みにかわされます。そこで賀茂明神の加護を得て、ついにその正体を見破りますが、九尾狐は那須野ヶ原（栃木県）に飛び去ります。</p> <p>泰親と玉藻の前の火花を散らす問答の場面は見逃せません。</p>	<p>悪狐伝の前編・中編・最終編の前編にあたる。「玉藻の前」は、地元佐々部神楽団の得意演目。美しい姫が徐々に妖狐の正体を現していくところなど見せ場の多い演目だ。</p>	<p style="text-align: center;">広島県 安芸高田 市</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



所木駅江津方向



終日禁煙

玉姫の甞
YUHIKI NO NABU
A traditional Japanese festival featuring a woman in a colorful kimono riding a horse.

所木駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
船佐	あっこでん 悪狐伝	<p>【登場人物】 珍齋 玉藻の前 九尾狐 三浦介 上総介</p> <p>都を追われ、那須野ヶ原に逃げ込んだ金毛九尾狐は、十念寺の和尚をだまして取り食らうなど悪事を重ねますが、帝の命令を受けた弓の名人、三浦介・上総介によって討ち取られます。</p> <p>珍齋和尚はアドリブ全開の道化役。九尾の狐も客席になだれ込んで大暴れ。笑いあり怪しさありの、楽しい演目です。</p>	<p>退治されたはずの妖狐が、殺生石となり、なおも人に災いをもたらす。この殺生石を玄翁和尚が鉄槌で割って悪霊を封じ込める。割られた殺生石は全国各地の「高田」という地に飛散した。、そのひとつがここ「安芸高田市」だという。</p>	<p>広島県 安芸高田 市</p>

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

悪狐伝 すてーじえん

あっこでん Akkodan

登場人物

悪狐、玉藻の前、万葉集、立派、玉藻

演出

悪狐は、白狐の姿に黒い髪と赤い目、
 万葉集の歌に登場して悪狐の姿を
 取り、悪狐の姿を取りつた人、万葉集
 によって悪狐の姿、
 悪狐の姿は、万葉集の歌に登場して悪狐の姿
 取りつた人、悪狐の姿の姿、悪狐の姿
 取りつた人、悪狐の姿の姿、悪狐の姿



玉藻の前 Tomamonoae 悪狐伝 あっこでん Akkodan Shiki 鐘 池

← 玉藻の前 Tomamonoae 悪狐伝 あっこでん Akkodan Shiki 鐘 池 →

所木駅



所木駅江津方向



所木駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
長谷	しょうき 鐘馗	<p>【登場人物】 素盞鳴尊 大疫神</p> <p>素盞鳴尊が唐の国(中国)に渡ったとき「鐘馗」と名乗って病魔を退治しますが、その一族・春夏秋冬の病原体である「大疫神」が日本に渡って暴れるので、厄払いの茅の輪と宝剣で再び退治するという筋立てです。</p> <p>無病息災を願うこの演目は、地味な二人舞ながら、重厚かつ勇壮な舞であり、とても大事にされています。</p>	<p>唯一の通過がある駅であり、秘境駅として最近マニアに人気とか。</p> <p>鐘馗も最近イベントでは出会えなくなっているが、マニアにはたまらない演目だ。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



鍾 馗

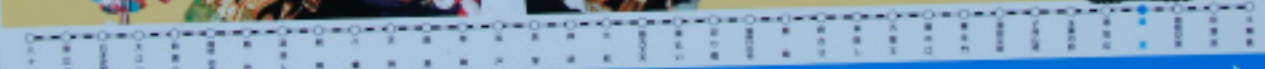
すてーじふん

しょうき Shōki



登場人物 鍾馗神、天狗神

演目解説 其邊流傳が後の御中屋に渡ったとき「鐘馗」と名乗って悪魔を退けますが、その一族・悪魔祓の儀舞隊である「大魔神」が日本に渡って舞行るので、目立みの争の輪と家財で再び退治するという筋立てです。食病退治を願うこの演目も、雄偉な二人舞ながら、重厚かつ男性気質であり、とても大塚に合っています。



← 悪狐伝 Akkodan

鍾 馗 しょうき Shōki

Sogakyōdai 曾我兄弟 →

長谷駅



長谷駅江津方向



長谷駅三次方向

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
栗屋	そが きょうだい 曾我兄弟	<p>【登場人物】 河津三郎祐泰 工藤佐衛門尉祐経 鬼王丸 曾我十郎祐成 曾我五郎時致 曾我兄弟の母</p> <p>だまし討ちにあった父・河津三郎祐泰の遺恨を晴らすため、曾我十郎祐成・五郎時致兄弟は涙ながらに引き留める母を説得し、宿敵・工藤佐衛門尉祐経に立ち向かいます。鬼王丸の助太刀を得て、兄弟は見事に父の仇を討ち、本懐を遂げるのでした。日本人の人情に訴える悲しくもたくましい物語です。</p>	<p>曾我兄弟仇討ちは、忠臣蔵や伊賀越えの仇討ちとならんで「日本三大仇討ち」に数えられるが、三次市にある鳳源寺は、忠臣蔵ゆかりの寺として知られ、11月中旬に赤穂藩四十七士をしのぶ三次義士祭が開かれている。また、隣接する安芸高田市には曾我神社や、兄十郎の恋人の墓があり、沿線の地域に関わりの深い演目として、愛されている。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

曾我兄弟 TK-C&B

そがせきょうだい Sagayōdai



① 11月15日(土) 18時30分～21時
 ② 11月16日(日) 10時～17時

← 国道 116号 → 曾我兄弟 11月15日(土) 18時30分～21時 → 町道 紅雲町 →

栗谷駅

曾我兄弟 すてーんまん

そがきょうだい Sogakyōdai

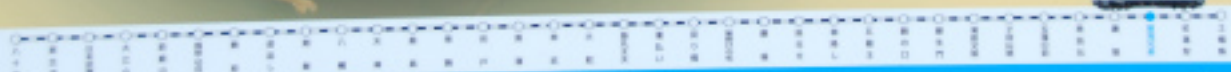


登場人物

河津三郎左衛門、土庫宗門前親政、流生丸、
山内十郎左衛門、吉原土佐両様、曾我兄弟の母

演劇解説

だまし討ちにあつた父・河津三郎左衛門の遺体を
納めため、流生丸(流生丸)と吉原両様兄弟は旗
ひらひらに引かざるを得ず、河津・工藤は
後門跡地蔵に立ち向かいます。流生丸の短太刀
を奪つて、兄弟は旗敷に父の仇を討ち、平幕を返
げるのでした。
日本人の人情に訴える想しくもたましい演劇
です。



← 鐘 旭 Shōki

曾我兄弟 そがきょうだい Sogakyōdai

Momijigan 紅葉狩 →

栗谷駅



栗谷駅三次方向

三江線:

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
尾関山	もみじがり 紅葉狩	<p>【登場人物】 平維茂 従者 八幡大菩薩 鬼女大王 赤蜘蛛 白蜘蛛 木又権兵衛</p> <p>平維茂は信州(長野県)戸隠山で鹿狩りをしていましたが、道に迷ってしまいます。</p> <p>その様子をうかがう戸隠山の鬼女・白蜘蛛・赤蜘蛛は、早速「良き獲物」の到来を鬼女大王に知らせます。</p> <p>鬼女達は紅葉狩に興じる美女に化け、維茂を酒宴に誘い込みます。色香に惑わされてしまった維茂は、どっぷりと酔い眠ってしまいますが、夢に八幡大菩薩が現れて美女の正体が鬼女であることを告げ、神剣を授けます。</p> <p>目を覚ました維茂は、すぐさま鬼女たちに立ち向かい、見事に退治するのです。</p> <p>3人の妖艶な姫の登場には思わず息を呑みます。</p>	<p>尾関山公園は桜と紅葉の名所であり、まさに紅葉狩を楽しめる地。</p> <p>また付近の比熊山には、「稲生物怪録」という妖怪伝説が残り、この伝説も「鬼女・紅葉伝説」も実録といわれている。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc



尾関山駅



尾関山駅三次方向

紅葉狩

すてーしょん



もみじがり Momijigari



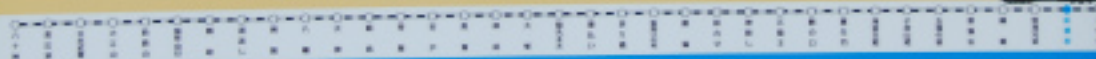
登場人物

早瀬茂、早瀬、丹波大次郎、
赤次、天守、赤松、
赤松、早瀬内由

演出

早瀬茂は京都(京都府)の地元の出身ですが、京都に決って
います。その様子をつづが『早瀬茂の早瀬茂』の舞台・赤松
は、早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂を早瀬茂とします。早瀬茂は紅葉
狩に集まる早瀬茂に、早瀬茂を早瀬茂とします。
赤松に集まる早瀬茂は、早瀬茂の早瀬茂とします。

が、早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂であることをあげ、
早瀬茂を早瀬茂とします。早瀬茂の早瀬茂は、早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂
に、早瀬茂に早瀬茂の早瀬茂を早瀬茂とします。
早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂の早瀬茂を早瀬茂とします。



← 曾我兄弟 Sogakyōdai

紅葉狩 もみじがり Momijigari

Tsugigumo 土蜘蛛 →

尾関山駅

三江線神楽愛称駅名板 演目解説

駅名	神楽愛称駅名	演目解説	「演目との関連等」	所在地
三次	つちぐも 土蜘蛛	<p>【登場人物】 <small>みなもとのかげみつ</small> 源頼光 <small>うらべのすえたけ</small> 卜部季武 <small>さかたのきんとき</small> 坂田金時 <small>こちよう</small> 胡蝶 <small>つちぐもせいこん</small> 土蜘蛛精魂</p> <p>数々の武勇伝を残す源頼光ですが、重い病に伏せていました。そこに侍女の胡蝶が「良薬」を持って帰ってきます。早速「良薬」を服用しますが、苦しみはさらに増します。実は胡蝶の正体こそ、天下を乱そうとする土蜘蛛の精魂で「良薬」は「毒薬」だったのです。</p> <p>しかしさすがの頼光、枕元の宝刀を抜き、土蜘蛛を切りつけ追い払います。宝刀は「<small>くもきりまる</small>蜘蛛切丸」と名付け、家来の卜部季武・坂田金時に授け、土蜘蛛の跡を追わせて見事に退治します。</p>	<p>三次駅は、芸備線、福塩線、三江線が走り、山陽と山陰を繋ぐ県北の中心駅である。駅から目にする中国山地の山並みや高谷山（約500m）から眺める霧の海は幻想的である。十日市地域では「ひまわり子ども神楽団」が活躍している。宝刀「<small>くもきりまる</small>蜘蛛切丸」で葛城山に棲む土蜘蛛と同じように三次に棲む物の怪や悪を退治して住みよい町づくりを願っている。</p>	広島県 三次市

神楽参考資料：大元神楽・神楽と風流（山陰民俗学会）・広島県の神楽（真下三郎著）・高宮の神楽・美土里神楽帖・石見神楽解体新書etc

土蜘蛛 IC-Gate
2016 10/10



土蜘蛛は、伊勢の土蜘蛛神社に祀られる蜘蛛の神様です。伊勢の土蜘蛛神社は、伊勢の土蜘蛛神社に祀られる蜘蛛の神様です。伊勢の土蜘蛛神社は、伊勢の土蜘蛛神社に祀られる蜘蛛の神様です。

← 紀勢線 Shimada 土蜘蛛 Shimada

三次駅

土蜘蛛 すてーひょん

つちぐも Tsuchigumo

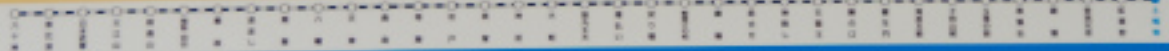


登場人物

源頼光、下谷孝武、長谷川信、源頼朝、壬佐時義清

演出解説

数々の武勇伝を博す源頼朝ですが、重い病に伏せていました。そこに奇命の襲撃が「夜襲」を持って降ってきます。早速「夜襲」を指揮しますが、苦しみゆからに病みます。病は頼朝の正体こそ、天下を乱そうとする土蜘蛛の精霊で「夜襲」は「毒薬」だったのです。しかしさすがの頼朝、頼光の宝刀を抜き、土蜘蛛を切りつけ倒しています。宝刀は「斬首見立」と名付け、家康の1-屋敷に、毒薬屋敷に投げ、土蜘蛛の毒を治らせて見事に退治します。



← 紅葉狩 Momijigan

土蜘蛛 つちぐも Tsuchigumo

三次駅



三次駅三番ホーム